

第19期 第3回理事会議事録

日時 昭和52年5月24日 17.20~18.00
 場所 如水会館
 出席者 岸保, 小平, 浅井, 朝倉, 内田, 奥田, 神山,
 河村, 門脇, 杉本, 立平, 松本 各常任理事
 田中, 磯野, 伊藤, 山元, 沢田, 坂上 各理事
 野本監事

報告

〈庶務〉

- 4月30日, 日本建築学会から, 第24回風に関するシンポジウムの講演募集要項の掲載方依頼がきた(11月11日於日本大学生産工学部5号館)。
- 5月13日, 計測自動制御学会から, 第3回リモートセンシングシンポジウム協賛依頼がきた(11月4日~5日於機械振興会館)。
- 5月21日, 第19期選挙管理委員長から, 学術会議会員候補者推薦選挙の件について報告があった。立候補届出は, 高橋浩一郎, 神山恵三, 増田善信の3氏。
- 学会賞, 藤原賞書面審査の結果
 投票総数 26票
 可とするもの 25票
 白票 1票

議題

- 総会準備について
 - 1) 理事長あいさつ(案)について検討。
 - 2) 昭和51年度決算書。
 - ア. 収入で気象研究ノート代金の回収により大幅に増収をきたした。
 - イ. 雑収入で預金利子の増収。
 - ウ. 学会賞は, 2件のため14万円支出。
 - エ. 人件費は, 公務員に準じベースアップを行なった。
 - 3) 昭和52年度事業計画(案)
 - ア. 気象集誌の頁数の充実。
 - イ. 教育と普及委員会を発足, 夏季大学を含め活動を推進。
 - ウ. “天気”に論壇の新設。
 - エ. “天気”および“気象研究ノート”の原稿料を1頁880円から1,200円に値上げしたい。
 - オ. 大会のあり方を引続き検討。
 - 4) 昭和52年度予算書(案)
 - ア. 収入で会員増により約30万円増で計上。
 - イ. 文部省助成金38万円増で計上。
 - ウ. 支出で編集費, 印刷費とも約10%増で計上。

エ. 会議費のうち地方大会費を10万円増で計上。
 オ. 人件費は公務員のベースアップに準じて引上げる。
 カ. 旅費は, 秋季大会が札幌で行なわれるため, 前年度より大幅に増額。

- 長期計画について
 山元担当理事から気象学第3次長期計画(1965年2月)への反省について報告があった。それによると,
 - 1) 大筋については, まとを得ているが, 環境問題については, 取上げられていなかった。
 - 2) 3本の柱については,
 - ア. 大気物理研究所は, 実現していない。
 - イ. 大学の気象学講座, 施設等の拡充強化が望ましい。
 - ウ. 行政官庁の研究の拡充強化, 研究者の養成の増強が望まれる。
 - 3) 気象学従事者間の人的交流の促進
 気象庁の職員が大学で, 大学の学生が気象庁で研修することはできないか。なお, 現段階では見直しの作業を進めているのでどういうふうにするかは決めていない。このまとめは報告の形で“天気”に掲載したい。
 - 昭和53年度当番支部について
 東北支部に願う。
 - “天気”“気象集誌”“長期計画”の委員の変更について
 - 1) 天気編集
 退任 黒崎明夫(気象庁電計室)
 新任 植村八郎(予報課)
 - 2) 気象集誌編集
 退任 清水正義(札幌管区気象台)
 // 倉嶋 厚(//)
 新任 新田 尚(気象庁電計室)
 // 宮沢 清治(予報課)
 - 3) 南極
 退任 吉田 菊治(東京航空地方気象台)
 新任 島貫林治郎(南極観測事務室)
 - 4) 長期計画
 退任 倉嶋 厚(札幌管区気象台)
 新任 青木 孝(気象庁予報課)
 // 立平 良三(//)
 以上各委員の交代の件承認。
- 承認事項 竹田信夫ほか24名の新入会員を承認。